

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の学習意欲を高め、進路実現を図る Semester制の教育課程編成と組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②課題研究等を見直し、課題解決力や表現力を高める探究活動の充実を図る。</p>	<p>①年次進行型 Semester制をもとに、新学習指導要領移行期に向けた基盤作りに取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、組織的な授業改善をICTを活用し推進する。</p> <p>②課題研究等の内容・形式等を改善し、生徒の課題設定力、課題解決力やプレゼンテーション能力を向上させる。</p>	<p>①1)年次進行型 Semester制教育課程編成に係る履修指導の改善を行う。新学習指導要領実施に向けた移行案を策定し、課題を検証した上でより適切な移行計画を立てる。</p> <p>①2)教科・系列等との連携のもと、教科の枠を越えたチームを編成する。これを中心にICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」に資する授業、コロナ禍に対応するオンライン授業の研究を進め、成果を共有し実践する。</p> <p>②課題研究等、多くの場面でICTを活用させ、課題設定力・課題解決力やプレゼンテーション能力等を高め、探究活動の充実を図る。</p>	<p>①1)多様な進路希望の実現につながる年次進行型 Semester制教育課程を編成し、効果的に運用することができたか。新学習指導要領の円滑な実施に向け、効果的な移行計画を立てることができたか。</p> <p>①2)組織的にICTを活用したコロナ禍にも対応する授業改善に取り組む、実践することができたか。(ICT活用状況、校内研修や研究授業、研究協議の開催数)</p> <p>②課題研究等の取組や発表の場面で効果的にICTを活用し、総合学科高校の取組がより充実させることができたか。</p>	<p>①1)年次進行型 Semester制教育課程編成について、オンライン上での登録作業の導入等、履修指導の改善に取り組んで登録作業を終了した。新学習指導要領に対応する教育課程については、教育委員会との調整を経て、完成させた。</p> <p>①2)5月に情報化推進WGを中心にオンライン授業の試行をし、9月にはオンラインでのLHR・SHRを実施した。コロナ感染症拡大防止のため対応で自宅学習が発生した際にオンラインで授業サポートを展開した。11月には「総合学科における組織的授業検討会」を開催し、ICTの活用を含めた授業研究を実施した。</p> <p>②課題研究等の取組や発表等の多くの場面で、生徒にICTを効果的に活用させ、課題設定力・課題解決力やプレゼンテーション能力等を高め、総合学科高校の取組を充実させることができた。</p>	<p>①1)新カリキュラムの新生(含む在県生徒)への運用を行う。今後、3年間の移行期カリキュラムの検討を進める必要がある。</p> <p>①2)次年度入学生から1人1台PC環境に移行することで、教員向けの新たな研修会の実施等を通じて、Chromebookを含むさらなる活用の研究を進め、「主体的・対話的で深い学び」に資する授業の充実を図るため必要がある。</p> <p>②課題研究・産業社会と人間等の取組や発表の機会において、生徒にICTを積極的に効果的に活用させるだけでなく、令和4年度からの1人1台端末の取組を踏まえ、総合学科高校としての教育活動の充実を図る必要がある。</p>	<p>本年度も引き続き新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況下、感染防止の徹底を図るため、様々な制限が掛かる中で、積極的に教育活動が推進されたと評価する。</p> <p>生徒の満足度アンケートの「選択科目を自分で選択して学習ができた」「自分の興味や関心に応じた科目を学ぶことができた」の項目では、90%の生徒から肯定的な回答が得られている。単位制総合学科の特性である多彩なカリキュラムが生徒たちに比較的よく浸透しており、その効果が大変よく表れ、生徒からも極めて高く評価されていることを大いに評価する。</p> <p>「課題の発見と解決、協働的な学習活動で思考力・判断力・表現力を高めた」の項目では、80%の生徒から肯定的な回答があり、授業改善の取組が順調に進んでいると感じる。次年度からの1人1台端末の導入に向けて、端末のより効果的な活用方法や活用した授業について、より積極的に研究し、生徒の多様な力を伸ばすための授業を実践していただきたい。</p>	<p>①1)科目履修については、オンライン上での登録作業の導入等、履修指導の改善を行った。次年度は、新カリキュラムの新生(含む在県生徒)への運用を開始し、今後3年間の移行期のカリキュラムについて、検討を進めていく必要がある。</p> <p>2)オンライン授業の試行、オンラインでのLHR・SHRの実施等、感染防止のため、生徒が自宅学習となった際にオンライン授業を展開する体制を整えてきた。次年度からの1人1台端末の導入も踏まえ、グーグルクラスルーム等を活用した授業の更なる工夫、端末を用いた授業スキルの向上を図っていくことが重要である。</p> <p>②11月の「総合学科における組織的授業検討会」の開催は、今年度の取組成果の一つである。また、研究授業の研究協議会での生徒インタビューの実施を含め、今年度の取組を継続し、定着を図る。さらに、これらを通じ「課題研究」「産業社会と人間」や各教科・系列科目の授業等、総合学科高校としての教育活動を充実させることができるよう、より組織的に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>①1)今後3年間の移行期のカリキュラムを整備するために、教科・系列会、新教育課程WGの動きを更に活性化する。</p> <p>2)1人1台端末の導入にあたり、端末の有効活用、「主体的・対話的で深い学び」に資する授業が充実するよう、職員研修の実施等、組織的な取組を進める。</p> <p>②今年度の成果を活かし、取組を定着させ、総合学科高校としての教育活動の更なる充実を実現する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
2	生徒指導・支援	①部活動を活性化させ、生徒の責任感や協働力の涵養を図る。  ②専門家と連携し、生徒の社会的自立を促す、きめ細やかな生徒指導・支援の充実を図る。	①生徒の主体性を重視し、部活動・委員会活動を活性化させ、生徒の責任感や協働力を涵養する。 ②スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)等と連携した組織的な教育相談体制を活用し、一人ひとりの生徒に応じた支援の充実を図る。	①部活動紹介や体験入部等のプログラム、入学希望者への広報活動等を工夫する。部活動・委員会を活用した学校行事の運営、地域活動への参加等、部活動生徒が活躍できる機会を増やす。 ②教育相談コーディネーター、SC・SSWとの情報交換を密にする。生徒の情報を共有し、コア会議・ケース会議を活用し、個に応じた組織的な支援を行う。	①部活動への入部率、定着率を高めることができたか。入学希望者への広報活動等を工夫することができたか。部活動生徒が活躍できる機会を増やすことができたか。 ②教育相談コーディネーターとSC・SSWと定期的に情報交換することができたか。コア会議・ケース会議を活用し、組織的に具体的な支援を行うことができたか。	①4月当初の部活動の入部率は高めることができた。2回の部活動体験会が中止や見学会となったが、動画配信を通じて入学希望者へのPRを行った。部活動の実施に様々な制限があり、生徒が活躍できる機会を増やすことが十分にできない面があった。 ②これまでにケース会議を必要に応じて開催した。SC・SSWとの情報共有、連携を行い、課題を抱える生徒へ支援につなげている。	①入部率の向上・定着に向けた取組を継続する。部活動・委員会の活性化や地域活動への積極的な参加に向け、状況に応じながら工夫した取組を継続していく。  ②課題を抱える生徒へのより良い支援のため、SC・SSWとの連携をさらに深めたより組織的な取組を展開していく。	体験学習や体験活動等の校外での活動、研修旅行、体育祭や文化祭、生徒会活動等は、感染防止のため制約が多い中で、教職員の熱心な指導により、多少不十分ながらも、それぞれの教育活動が実施されている。生徒の満足度アンケートの結果からも、生徒も感染防止による制限は十分に理解しており、その環境下でも半数以上の生徒が比較的良好的な評価をしており、学校の意図は伝わっていると評価する。 生徒の主体性や責任感、協働性を伸ばさせる部活動や委員会活動の活性化に向けた取組、課題を抱える生徒を支援するより組織的な工夫した支援体制、支援策の展開をお願いしたい。	①生徒活動Gが中心となって、感染防止に配慮しながら、計画をたて、体育祭・文化祭等を実施することができた。感染防止対策の制約のある中、生徒を主体として準備を進め、学校行事を成功させることができた。部活動への入部率を高める取組は、引き続き工夫しながら、進めていきたい。 ②生徒の抱える課題の解決に向けて、SC・SSWと連携しながら、個に応じた支援を進めてきた。SC・SSWとの連携を更に深め、教育相談コーディネーターを中心として、課題を抱える生徒へ対して、より組織的で効果的な支援に取り組んでいく。	①より生徒主体の学校行事を実現していくため、委員会活動等、様々な機会を通じた生徒への働き掛けや支援をしながら、体育祭文化祭の計画・準備を進めていく。部活動で活躍する生徒の様子についての情報発信等も工夫しながら、部活動への入部率を高める取組を継続していく。  ②課題を抱える生徒のために、SC・SSW等の外部人材との連携、協力しながら、引き続き、組織的な支援に取り組んでいく。
3	進路指導・支援	生徒が主体的に進路を考え、実現に向けて必要な能力や態度を育む指導・支援の充実を図る。	生徒が主体的に進路選択できるよう、総合学科としてのガイダンス機能を充実させる。外部教育力を活用し、教員の指導力向上を図る。また、キャリア教育の一環として生徒の規範意識を向上させる。	1) 産業社会と人間の企画・運営について工夫・改善し、授業を充実させる。就業体験活動・校外学習等の活用を促し、学校外での学びの機会を増やす。 2) 外部テストの分析・活用のための外部講師による研修会等、教員向け研修会を設定し、教員の指導力を向上させる。 3) 校内・校外を問わずルール・マナーを守ることの大切さを様々な場面で指導する。	1) 「産業社会と人間」の授業を工夫・改善し、充実させることができたか。校外での学びの機会を増やすことができたか。 2) 教員向け研修会を設定することができたか。その成果を生徒との面談等で生かし、進路選択を支援することができたか。 3) 生徒の規範意識は高まったか。	1) 「産業社会と人間」の学習ノートを作成し、生徒に年間の見通しを持たせて取り組ませることができるようになった。就業体験活動や「仕事のまなび場」は実施できたが、特別支援学校訪問や留学生との交流は感染症対策のため実施できず、講演などの形式に変更した。 2) 専門学校学習会、ステップアップ学習会、ベネッセのデータ活用の研修会など実施できた。 3) 進路ガイダンスや外部講師の講話の機会を活用し、マナーの向上を意識づけた。	1) 常に新型コロナ対応について想定する必要があるが、そのことで消極的にならずに計画する。また校外での学びの意義についても職員間で共有する。  2) 新入試制度の理解や志望理由書の作成指導の向上を図るために教員向け学習会を企画していく。  3) 教員側にも主旨を十分周知して、積極的に外部の教育機関の活用を促していく。	進路については、総合型の利用者が減少し、学校推薦型(指定校・公募)の利用者が増加したこと、看護系・管理栄養士系への進学が例年より多かったことが今年度の傾向のようだ。大学等による生徒の進路希望状況の違いもあるだろう。企業が採用を控える中、就職希望者の内定が得られたことは評価できる。 コロナ禍の中で、必ずしも校外の活動が十分にできなかったと思われるが、生徒の満足度アンケートの「産業施設や福祉施設での体験活動や体験学習ができた」「大学・専修学校等との連携による学習ができた」の項目で70%以上の生徒がその成果を好評価していることから成果はあげられていると評価する。	1) 「産業社会と人間」の学習ノートのより効果的な活用、年次職員のより深い共通理解を図りながら、総合学科の取組の柱の一つである「産業社会と人間」の授業の更なる充実を実現する。感染対策を考慮した上で、校外での活動を含めて、生徒がより大きな学びを得られるよう、各取組の工夫・改善を進める。 2) 総合学科としての組織的な進路支援、キャリア教育が実施できるよう、職員向け学習会を引き続き、企画していく。 3) 外部講師を活用した講演等の機会や「仕事のまなび場」等の校外で学ぶ機会を活用し、引き続き、生徒のモラル・マナーの向上につなげていきたい。	1) 職員の共通理解を更に深めた上で、「産業社会と人間」の授業の更なる充実、校外での学びの機会を増やしていく。  2) 組織的な進路支援、キャリア教育が充実するよう、職員向け学習会・研修会等を計画的に実施する。  3) 様々な機会を通じて、モラル・マナー向上のための指導を継続する
4	地域等との協働	地域との交流や協働を深め、信頼され開かれた学校づくりを推進する。	学校運営協議会を円滑に運営し、地域や保護者等との交流や協働を深め、信頼される開かれた学校づくりを推進する。また	1) 学校運営協議会の取組を活用し、部活動や委員会の生徒を地域行事やボランティア活動へ参加させ、生徒の活動を充実させる。(長後地区商	1) 学校運営協議会を円滑に運営することができたか。部活動・委員会ごとに関心地域行事やボランティア活動に参加する生徒が増	1) 感染症対策の影響で地域行事が中止となり、部活動・委員会活動でのボランティア活動への参加が十分にできなかった。ボランティア部が	1) これまでのように地域行事が実施された際には、地域社会で生徒を活躍させ、地域とともにある学校づくりを進めたい。	生徒の満足度アンケートの「地域社会に貢献しようと思うようになった」の項目で80%の生徒が肯定的な回答をしている。コロナ禍の中でも、学校周辺地域の皆様のご協力により、生徒にと	1) 引地川の土手沿いのコスモス栽培は例年どおりに実施することができた。本校の恒例行事として、保護者・地域と協働しながら今後も継続していく。地域での活動の機会は多くはなかったが、長後商店街のプロジェクトへの参加等、生徒の地域貢献	1) 長後共育フォーラム等での情報発信により、本校の取組への地域の方の参加を促進し、地域との交流を盛んにする。生徒の校外で活躍する機会を増やしていく。  2) 総合学科高校として、普通科

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			学校の魅力と特色を積極的に発信する。	店街・小学校・福祉施設訪問、防災訓練への参加等) 2)学校の魅力や特色をホームページ等で定期的に発信する。	え、生徒の活動が充実したか。 2)ホームページを定期的に更新することができたか。(月3回以上の更新)	長後商店街のプロジェクトへ参加し、引地川土手沿いのコスモスの種蒔・栽培は予定通りに実施することができた。 2)概ね月3回以上のホームページ更新をすることで、部活動、学校行事等の教育活動や、本校の魅力と特色について発信することができた。学校説明会への参加申込みや学校紹介動画の視聴においてもホームページを活用した。	2)総合学科高校である本校の特色と魅力について、学校紹介動画等によって、本校のことをより具体的にイメージできるよう、ホームページ等での情報発信のさらなる充実を図る必要がある。	っては社会貢献の意義の理解にはつながっており、成果はあがっている。 例年通りコスモスの播種を行い、生徒会・地域交流委員・学校運営協議会・保護者等によるコスモスの集いなど地域との交流が実施されたことは評価できる。	への意識は高い。今後も地域とともにある学校づくりを進めたい。 2)月3回以上、ホームページを更新することで、部活動や学校行事等の本校の教育活動や、総合学科の魅力と特色について発信することができた。生徒の活躍の様子や本校の魅力について、積極的に情報発信をしていく。第1回学校説明会については、学校紹介動画を作成し、配信することにより実施した。例年の説明会参加者数を大幅に上回る中学生と保護者の視聴があり、成果があった。動画配信を含め、今後のより効果的な広報活動を検討していきたい	高校にはない魅力と特色ある教育活動を中学生や保護者により理解してもらえるよう、ホームページで発信する情報を更に工夫・充実させる必要がある。
5	学校管理 学校運営	職員の教育力や事故・不祥事防止に係る取組を効果的に実施し、協働意欲と組織力の向上を図る。  働き方改革を推進するための職員の意識改革を図る。	①生徒の安全・安心を確保するため、新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組む。 ②総合学科高校としての教育資源を活用し、「人権教育研究指定校事業」に係る研究を組織的に推進する。 ③在県外国人特別募集の実施校となることを受け、校内準備を進める。 ④災害時の安全対策の充実を図り、生徒の防災意識を高める。 ⑤職員研修を工夫・充実させ、事故・不祥事防止に取り組む。また職員の資質を向上させ、組織力を高める。 ⑥職員一人ひとりが働き方改革に取り組む。	①県の通知等を踏まえ感染防止対策を十分に取った上で、授業や部活動等の教育活動を実施する。 ②人権教育研究WG(仮称)を立ち上げ、計画的・組織的に研究を推進する。 ③特別募集枠で入学する生徒の受入れ体制を整備することができたか。 ④年2回以上の避難訓練や地域と連携した防災訓練等を実施し、職員や生徒の防災意識を高まったか。 ⑤職員の事故・不祥事を未然防止することができたか。点検シート等を活用し職員の資質向上が図られたか。 ⑥職員の長時間勤務は改善したか。職員一人ひとりの働き方改革が進んだか。	① マチコミメールの配信等で感染防止を徹底した。 ②人権教育研究WGを立上げ、校内人権研修等の取組を進めている。 ③在県生徒支援のためのカリキュラムを整備した。8月には職員研修を開催した。2月には多文化教育コーディネーターと打合せをし、3月以降の通訳支援等の整理を行った。 ④4月にグランドへの避難、集合訓練を実施した。8月末は中止、地域連携の防災訓練は未実施である。 ⑤職員会議に併せ、点検シート等を活用した事故防止研修を実施した。8月には職場討議を実施した。 ⑥夏・冬に学校閉庁日を設け、実施した。朝の職員打合せの時間短縮化に取り組んでいる。	①日常の学校生活に限らず、体育祭や文化祭等においても感染防止対策の徹底を図る。 ②各種人権教育活動について、学校ホームページや校内の掲示板を通じて積極的に周知していく。 ③校内の支援組織を機能させ、生徒の課題について共通理解を図りながら円滑に支援を進めていく。 ④感染症防止に留意し、効果的な防災訓練を検討する。11月には災害図上訓練(DIG)を実施した。 ⑤討議形式の研修の効果が高いことがわかった。職員が「自分ごと」として捉えることができる研修を今後にも検討していく。 ⑥継続して学校閉庁日を設定する。職員一人ひとりの働き方改革の取組を継続していく。	昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、感染防止策を図るため、教育活動の展開に多くの制限が掛かる中、教職員が一体となって各自の役割を積極的に果たした。年度当初に掲げた教育活動、学校運営等が実行できたことが生徒の満足度アンケートの結果に現われており、十分に目標が達成されたと評価する。 次年度は、在県外国人生徒が入学してくることもある。職員の共通理解を図りながら、円滑に支援を進め、生徒全体の共生する心の育成にもつなげてほしい。 職員の働き方改革に向けた取組は、継続してもらいたい。 コロナ禍に応じた教育活動の展開が引き続き必要と思うが、総合学科高校として、生徒のより充実した教育活動の実現を目指して、取り組んでほしい。	①マチコミメールの配信をはじめ、感染防止に向けた情報発信を積極的に行った。HRや部活動での指導を含め、生徒への指導を継続する。 ②人権教育研究WGを中心となり、人権教育に係る研究の1年めの取組を進め、その成果を他の県立学校へ発信した。 ③在県外国人生徒支援のため、カリキュラムの整備、入学までの支援を行った。次年度は、入学した生徒のために、多文化教育コーディネーター等との連携を密に、より良い支援を進めていく。 ④感染症防止に配慮した上で、防災訓練等を実施し、生徒の防災意識を高めてきた。 ⑤「職場討議」等の職員主体の協働的な研修では、高い効果が得られた。次年度の事故・不祥事防止研修にも反映していきたい。 ⑥職員の働き方改革の取組が大きく進展したとは言い切れない。他校の取組事例も参考にし、取組を継続していく。	①感染防止に向けた生徒の意識を高め働き掛けを継続する。  ②研究2年目の取組を円滑に進め、成果を全県立学校へ発信する。  ③多文化教育コーディネーター、日本語支援の非常勤と緊密に連携し、入学した在県外国人生徒支援に対し、具体的な支援を進める。  ④生徒の防災意識を高める取組を継続する中で、工夫・改善を図る。  ⑤効果的な研修会を企画・実施し、事故・不祥事ゼロを実現する。  ⑥小さな工夫、職員からのアイデアも募りながら、職員の働き方改革に向けた取組を継続する。	